

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22年 4月 26日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2772401788		
法人名	有限会社 なかよし		
事業所名	グループホーム なかよし		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	枚方市東香里元町4番13号		
自己評価作成日	平成 22年 3月 22日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

### 【事業所基本情報】

① 介護サービス情報の公表制度の基本情報を利用する場合	
② 情報提供票を利用する場合	別紙情報提供票のとおり

① 基本情報リンクURLを記入 ② 別紙情報提供票のとおり

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 近畿マネジメント・サポート・センター
所在地	〒546-0035 大阪市東住吉区山坂五丁目5番14-103号
訪問調査日	平成 22年 4月 20日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

小さいグループホームにしか出来ないサービス（小さな事にも気が付く目配り、心遣いや、ご本人への声掛けはもちろん、ご家族とのコミュニケーション）の向上を図ってきました。入居者も6名中3名が開所以来の方で、ご家族も含めコミュニケーションが非常に取りやすい状況となっています。また、従業員も8名中5名が勤続6年を越えており、馴染みも深く取れています。ホームに赤ちゃんや幼児の訪問もあり、入居者の方も母親に戻られたように生き生きされます。

「地域に根付いた介護施設」を目標に、地域の方々とのコミュニケーションを心がけています。「なかよし便り」の発行や、地域活動への積極的な参加に継続的に取り組んでいます。消防設備のスプリンクラーは新築時に工事済みです、消防訓練も、地域の方々にご参加いただき、地域の防災活動として取り組んでいます。スタッフが認知症ケア専門士の資格を取得し、さらなるケア技術の向上に取り組んでいます。さらに、スタッフが新たに2名介護福祉士の資格を取得し、体制の充実を図っています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

所在地は、枚方市の丘陵地に近く、閑静で散歩に適した環境に恵まれ、設立後7年ですが、運営者を始め職員も近在の方が多い関係もあり、地域の住民と顔馴染みが多く、家庭的な雰囲気ホームです。職員10名のうち、当初からの勤続者2名も含め6年以上のベテランが5名居り、利用者は安心して日々の生活を送っている。

食事は、料理が得意な職員の毎日の献立により、季節に合わせた総菜で、盛り付けにも工夫し、和風のいろいろな、うつわで趣向を凝らし、楽しみながら食事をしている。

又、運営者は、この7年間に最後までのお世話を何名かされているので、利用者や、ご家族は安心して日々を送っている様子が、ご家族アンケートにも表れている。

建物は昨年度の新築で、グループホーム専用の設計で作られているので、居心地よく利用者の方々は暮らしている。

玄関すぐ横に、日本画の大きな「婦人像」が掲げているが、これは絵画に巧みな利用者の作品で、目の保養になります。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○ 理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「普通の家で、普通の暮らしを」を理念として、家庭的雰囲気、地域との関わりを大切にし入居者が落ち着いてその人らしく暮らせる事を理念として日々の支援に心がけています	毎日の連絡会はもとより、毎月定例の会議を毎月第4月曜日の10時から開催し、理念の実践の指導を始め情報交換を行なっている	
2	2	○ 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として、日常的に交流している	ホームとして自治会加入し、夏祭り、運動会、敬老会などに参加させて頂き、地域交流を行い。地域も便宜を図ってくれています。他のグループホームとの交流会で、入居者・スタッフとも、手話講座や食事会で楽しんでいます	以前の住所時代からも自治会に加入し、各種の行事にも参加している	
3		○ 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や、支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に呼びかけて、消防訓練を一緒に行うなど、地域活動を行っています。また、地域の一人暮らしのお年寄りの見守りも継続的に行っています	/	/
4	3	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、ホームの取り組み、報告又意見を取り入れサービスの向上に努めています。外部評価に関する報告も行い、改善の取り組み等に関しても打合せを行っています	毎月第4月曜日を定例開催日とし、各種の報告と情報交流を行っている	
5	4	○ 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題点を含め、常に高齢社会室に相談し、サービス向上のための指導を受けています。市民の皆様や地域の皆様にグループホームの意義を知って頂くため、なかよし便りを作成して高齢社会室にも置いて頂いています	運営者は市役所のご担当の方々と、質問事項等で訪問したり、電話で連絡を取り合っている	
6	5	○ 身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて、身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを基本としています。必要時にはご家族にも期間・時間を限定して同意書をいただき、経過観察記録を作成しながら最小限の範囲で行っています	多少に関わらず、疑問の解決等も含めて関係のある官公署、医師、看護師等からご指導を頂きながら行なっている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○ 虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設長および管理者が研修に参加し、スタッフには虐待に関する内部研修を行っています。資料を常備して、常に認識させると共に、防止に努めています		
		○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者に対して、成年後見制度を活用した実績があります。弁護士が財産管理を行い、社会福祉士が後見人となり、連携を取りながら終末介護まで行いました。現在、社会福祉協議会とともに成年後見人制度を活用しています		
9		○ 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居手続きをマニュアル化するなど、文書と口頭での十分な説明を心がけ、理解、納得、了解を図っています		
	6	○ 運営に関する利用者、家族等の意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員、並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員に訪問いただき、入居者個々に対して面談を行い、意見や不満を聞いてもらう機会を設けるとともに、運営推進会議だけでなく、来訪されるご家族との会話を大事にしています		
11	7	○ 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や、提案を聞く機会を設け、すれらを反映させている	苦情処理マニュアルを作成し、苦情相談記録を作成する体制を確立しています。意見箱を設置し、外部からの意見が出しやすい環境を整えています。		
		○ 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、ケア会議のだけでなく、常に管理者や職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させています。また、5年以上勤務している職員が半数となっており、風通しのいい、職場環境を整えています。就業規則の明確化や法定外労災の加入など、労働条件の整備に努めています		
13		○ 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加したスタッフには、レポートを作成させる共に、スタッフ全員に伝えさせています。スタッフに介護福祉士の資格取得を促し、共に学ぶ環境を作っています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○ 同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>介護支援専門員連絡会、引続き施設委員会の役員をしており、委員会の会合に問題意識を持って参加しています。研修会・勉強会や相互訪問等にも積極的に参加しています。他のホームと月1回の利用者を含めた交流を行い、スタッフ同士の交流を図ることにより質的向上に取り組んでいます</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○ 初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人、ご家族同伴で見学してもらい、ご希望により体験入居をしていただき、納得の上、入居していただくよう心がけています。スタッフは、多くの情報収集、理解して、受け止める努力をしています</p>		
16		<p>○ 初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居者・家族の今日に至るまでの苦しみや現在持っている不安を理解するようにしています。家族と問題を共有する姿勢を理解してもらえるように、丁寧に説明するようにしています</p>		
17		<p>○ 初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者や家族の思いを理解し、最適なものを提案するようにしています。その時の必要なサービスをよく理解できるように「聞くこと」に努めています</p>		
18		<p>○ 本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を支援される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>共に生活し、食事についても一緒に同じ物を食べ日常生活の中で喜怒哀楽を感じ合い、本人の人生経験の知恵などを学んだり、その時の状況に応じお互いに支えあっています</p>		
19		<p>○ 本人と共に過ごし支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族にも行事等に参加してもらい、介護への参加意識を持ってもらうように心がけています。職員も家族と気軽に話が出来る信頼関係を構築して、一緒に支えあう環境作りをしています</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援	家族を含めた馴染みの方との関係が維持できるように手紙を送る支援をしています。希望があれば、以前の住まいに遊びに行ったり、来いたりで共に過ごして頂く等できる限りの支援をしています	今までの生活の中での人間関係を大切にすることが、細かな配慮をすることを、職員一同で話し合っている	利用者のお孫さんを始め、幼児達と小学生との交流も、検討されたら如何でしょうか
		本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や、場所との関係が途切れないよう、支援に努めている			
21		○ 利用者同士の関係の支援	少人数なので利用者スタッフがひとつの話題で盛り上がることも多く、利用者同士の会話も弾みます。日常生活を常に見守り、孤立しない環境作りに努めています		
		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている			
22		○ 関係を断ち切らない取り組み	入替りも少なく、終末までお手伝いさせていただいている事もあり、終了後の利用者の方がいなくなっています		
		サービス利用（契約）が終了しながら、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○ 思いやり意向の把握	本人の日常会話やご家族からの聞き取りにより、思いやり意向を把握し、希望を大切にしています。また、各々の生活ペースを大切にしています	玄関の直ぐ横は昼間の共用室となって、話し合い、楽しみごとで過ごしている。玄関の鍵掛は原則的には行っていない	
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
24		○ これまでの暮らしの把握	入所前から出来る範囲で情報収集に努め記録し、入所後も日々の日常生活の中で把握に努めています		
		一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている			
25		○ 暮らしの現状の把握	日常生活を共に過ごす中で、ご本人の有する力の把握に努め記録し心身状態も日々の観察（顔色、食欲、医療機関との連携、バイタルチェック）などにより把握に努めています		
		一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の、現状の把握に努めている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○ チームでつくる介護計画とモニタリング	ケアマネを中心に本人、家族の希望、係り付け医師のアドバイスを元にスタッフ、家族と話し合い、意見やアイデアを出し合い、より良く暮らすための介護計画を作成しています	一日の生活の大部分は運営者、計画作成者も職員と殆どの時間を一緒に過ごしている。	
		本人がより良く暮らすための課題と、ケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している			
27		○ 個別の記録と実戦への反映	介護記録チェック表や介護日誌に、日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている		
		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている			
28		○ 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	デイケア、終末ケア（訪問医療・訪問看護）を本人の状況を把握して、柔軟な体制で支援しています。また、本人の状況や要望にあわせ、生活支援、受診等の支援を個々に合わせて柔軟に行っています		
		本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援や、サービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○ 地域資源との協働	運営推進会議の民生委員の方の協力や、介護相談員、消防訓練、救命救急訓練などで消防署等にご協力いただいています		
		一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	11	○ かかりつけ医の受診診断	かかりつけ医の通院介助、契約医療機関の月1回の往診の支援、週1回の訪問看護、緊急時対応の確立をし、すぐ連絡できる体制を取っている	本人や、ご家族が希望されるかかりつけ医となっている。受診や通院は、本人やご家族の希望に応じて対応している	
		受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			
31		○ 介護職員との協働	職員は、常に入居者の皆さんの顔を把握し、往診して頂く医師や看護婦に常に相談しています。その日の入居者の方々の状態を、日報に記載するようにしています		
		介護職員は、日常の関わりの中で、とらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		<p>○ 入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	退院後の対応について病院より情報、助言をもらい、訪問看護に引継ぎ、早期退院にて安心して暮らせるよう努めています			
33	12	<p>○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で出来ることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	緊急時の対応・看取り時期の医療内容・看取り同意書など作成し、家族やかかりつけ医と話し合い、往診・訪問看護師の協力により看取りを行っています	重度化に伴う意志確認書を作成し、ホームが対応し得る最大のケアについて、説明を行っている		
34		<p>○ 急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	職員のうち、5名が上級救命講習を受講し、枚方消防署で実勢的な訓練を行っています。救急車の要請時の緊急時対応マニュアルの作成をしています。ナースコールの設備を整えています			
35	13	<p>○ 災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を、全職員が身に付けると共に、地域との協力体制を築いている</p>	災害カードを作成し避難経路に設置しており、スタッフにも出入口や避難経路を避難経路について話し合い、防火訓練をしています。最寄の消防署に緊急時の協力を依頼しています。施設長は防火管理責任者の資格を取得しています	消防署員の協力を得て避難訓練や、避難経路の確認等の訓練を行っている		
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	<p>○ 一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りや、プライバシーを損ねない言葉かけや、対応をしている</p>	プライバシーに配慮した言葉かけ、個人情報の守秘義務をスタッフ全員心がけています。個人情報の保管場所を決め目に付かないように適切に管理しています。特に、日誌にはイニシャルで記入し、プライバシーに配慮しています	援助が必要な時も、先ずは本人の気持ちを大切に、さりげないケアを心がけている		
37		<p>○ 利用者の希望の表出や、自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が、思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	スタッフが積極的に話しかけ、何気ない会話の中から思いや希望を表せるよう働きかけています。出来るだけ本人の希望に沿った支援を心がけています			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	食事の時間など基本的な時間以外は、マイペースに過ごせるようにしています。本人の希望と状況に応じて、行事を行っています		
39		○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみや、おしゃれが出来るように支援している	洋服は好みの物を着てもらい、季節感などのアドバイスをしています。都度、美容院を予約し利用を支援しています。また、美容師の方に出張して頂き、化粧やマニキュアを指導頂く等の支援を行っています		
40	15	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように懐石風、松花堂弁当、花見弁当など食事が楽しくなる工夫をしています。献立の希望を取り入れたり、希望により調理や配膳・片付け等協力しながら行っています。誕生日には、家族を誘ったりして楽しんで頂いています	食事担当の職員が、利用者の好みと、季節等に合わせて楽しませてくれている	
41		○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の食材を中心に、1日30品目の摂取を心がけて調理しています。夏期には、摂取した水分量を計り、自然な形で水分摂取を促しています		
42		○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や、本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の力量に応じて口腔の洗浄を支援しています。義歯の手入れ、保管にも心がけています		
43	16	○ 排泄の自立支援 排泄の失敗や、おむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や、排泄の自立に向けた支援を行っている	なるべくオムツを使用しないように排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を行っています。一人ひとりの力や習慣を把握して、気持ちよく排泄できるよう支援しています	排泄記録を基に、職員は適宜、誘導するよう心がけている	
44		○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や、及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食事で食物繊維の摂取しています。個人別に排便状態を把握し、医師と相談しながら適切な対応を行っています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように、職員の都合で、曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に、週2回の入浴と夏季は、随時シャワー浴もとり入れています。希望があれば、毎日入浴可能な体制を取っています。ゆず湯や菖蒲湯など安らぐ入浴を支援しています。	最近、出来るだけ入浴時間の希望に副うよう配慮している	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣や、その時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節による寝具の入替えや日光消毒、シーツ・パジャマは清潔にし、日中の活動を通し昼夜逆転しない生活リズムを作っています。冬期には就寝前の足浴を行い気持ちよく眠れるよう支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と、症状の変化の確認に努めている	どのスタッフでも対応できるように服薬毎に分包しています。薬の説明書も全員に共有しています。薬が少なくてすむように、医師に相談しながら対応しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や、力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の盛り付け、配膳、下膳はスタッフと一緒にし、気の合う仲間との雑談、DVDで美しい風景を見ながらカラオケを楽しんでいます。ミシン掛けや絵を描いていただくなど、一人ひとりの生活歴に合わせて支援を行っています		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は出来るだけ散歩に行くようにしている。希望により買い物も見守りや付添い等本人の力量に応じて支援しています。墓参りなど、家族を含めた希望に沿った支援も行っています	住宅街なので、散歩中は適宜に、ご近所の方々との会話をしながら、楽しんで頂いている	
50		○お金の所持や、使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり、使えるように支援している	一人ひとりの希望や力量に応じて、お金を所有し、本人の買い物や美容室等の外出時に使えるように支援しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に、本人自らが電話をしたり、手紙のやりとりができるように支援している	年賀状や暑中見舞いの支援、電話の支援等を行っています			
52	19	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な混乱を招くような刺激(音、光、色、広さ、温度など)が無いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地良く過ごせるような工夫をしている	クリスマス、お正月、節句など、季節を取り入れた額やタペストリーを入居者と一緒に飾り付けをしています。壁には、月々の花を飾りつけ、四季を味わって頂いています	共用室の飾りは、職員と共同で、季節に合った手仕事で楽しんで頂いている		
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先ソファやリビングにて思い思いに過ごされています。リビングには寒暖の影響を受けにくいペアガラス、温度変化の少ない床暖房を採用しています。また、6角テーブルで利用者同士の語らいができるように工夫しています			
54	20	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや、好みのものを活かして、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている	居室には、本人、家族の希望もとり入れ、相談し、馴染みのものを持ってきて、居心地良く過ごせるように支援しています。全居室が南向きの暖かい部屋になっています。すべての居室の窓にも、寒暖の影響を受けにくいようにペアガラスを採用しています	新築の居室なので、各自が自由に、家財道具類を持ち込んでいる		
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつ、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名札を取り付け、その他も表示などで混乱を防いでいます			

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
58	利用者は一人ひとりのペースで暮らしている	○ ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており、信頼関係ができています	○ ① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどいない
64	通いの場やグループホームに、馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くない
66	職員は生き活きと働けている	○ ① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスに、おおむね満足していると思う	○ ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに、おおむね満足していると思う	○ ① ほぼ全ての家族が ② 家族の2/3くらいが ③ 家族の1/3くらいが ④ ほとんどいない